



いわての林業人33

大崎善實氏農林水産大臣賞を受賞
第51回全国林業経営推奨行事

1 はじめに

平成24年度の全国林業経営推奨行事において、九戸村の大崎善實氏（69歳）が東北で1人、本県からは6年ぶりとなる農林水産大臣賞（全国で8名）を受賞され、平成24年11月19日、東京都において賞状伝達贈呈式が行われました。

同行事は、森林所有者（法人等を含む）の林業技術及び経営意欲を高め、林業所得の安定的向上を通じて林業の近代化、産業的発展を図ることを目的に毎年実施されているものです。平成24年度も全国から多数の応募があり、その中で大崎氏は優れた林業経営であり、かつ地域林業の振興に対する貢献などの功績が認められ受賞されました。



2 大崎氏の経営概要等

森林所有面積350㏎を経営し、樹種構成は、アカマツ35㏎、カラマツ8㏎、スギ3㏎、ヒノキ1㏎、広葉樹53㏎となっております。それぞれの樹種ごとに、生産目標を立て計画的な施策を実施しています。

薪炭林としての広葉樹林は、伐期20〜30年で伐採し天然更新で再生する循環利用林に整備するために萌芽更新の補助作業を実施しています。スギ、カラマツ人工林などでは優良大径材の生産を目標に適期に間伐を実施しています。人工林は、路網整備と間伐を主体とした森林管理を行って行きます。年間に4〜5㏎の間伐を実施し約150立方㏎の材を生産しています。木炭の生産は、岩手大量製炭窯3基で毎年約26トン生産しています。労働力は、夫婦2人の労働力を主体として繁忙期には臨時作業員1名雇用しています。

3 経営目標

(1) 木炭生産を中心とした林業経営
所有森林の資源構成を活かし、広葉樹を利用した木炭生産と主に融資により整備した人工林を活用して林業経営を行っています。主伐は齢級構成などを考慮して計画的に行い、伐採跡地については再造林を確実に行っていきます。また、広葉樹伐採地

は、萌芽更新が適切に行われるよう伐採時期に配慮しながら、天然更新施策を行っています。

(2) 計画的な間伐による優良大径材生産と広葉樹の天然更新施策の確立化
広葉樹林の資源量を生かし木炭生産用として皆伐し、その後、天然更新施策により再生し、資源の循環利用に配慮しています。人工林については、適期に間伐を実施し、優良大径材の生産を目標としています。

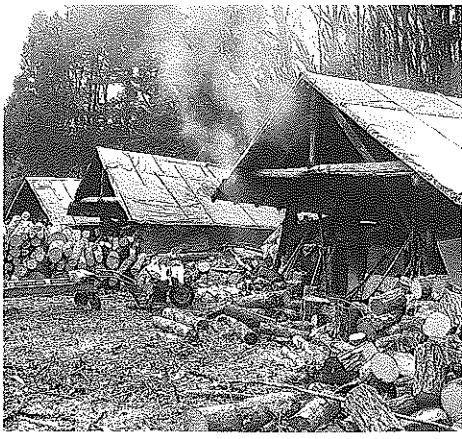
また、伐採跡地は必ず造林し、「伐つたら植える」を実践しています。木炭用の広葉樹は自ら伐採しますが、人工林の主伐、間伐及び植栽などは森林組合に委託しています。

(3) 高密度路網整備による低コスト化
低コスト作業を進めるため、作業道など路網の高密度化により、定性間伐と木炭用の広葉樹伐採木の搬出作業を効率的に進めています。路網整備状況は、林道500m、作業道2千700m、作業路2千800m、計6kmで作業道を積極的に開設し、高密度路網17.1m/haにより低コスト化を図っています。

4 地域林業の振興に対する貢献
大崎氏は、九戸村林業実行組合長として、集約化施策の実施について組合員に積極的に働きかけるなど、地域の森林整備の促進に貢献していま

す。また、日本一の生産量を誇る県北地域の木炭振興を図るために平成23年度に設立された「北岩手木炭産業振興協議会」の理事として、岩手木炭の新たな需要拡大のための販売戦略の策定などにも尽力しています。また、木炭は、主に関東圏に出荷していますが、岩手木炭の品質向上のため、生産者間での連携を強化し、日々研鑽に努めるほか、飾り炭などの新商品の開発にも取り組んでいます。

5 おわりに
林業を取り巻く環境が厳しい中で、農林水産大臣賞を受賞されたことは、本人はもとより地域の林業関係者にとっても大きな励みであり、今後益々のご活躍を期待しています。



林業技術センター普及班
019(698)1337